

天文学と プラネタリウム

第55回



今月のお題

ペーパークラフト 天球儀



作って楽しい、広げて楽しい、星をみつけて楽しい。
そんなペーパークラフトの紹介です。



www.tenpla.net

高梨直紘 (国立天文台 広報普及室)

平松正顕 (台湾 国立清華大学)

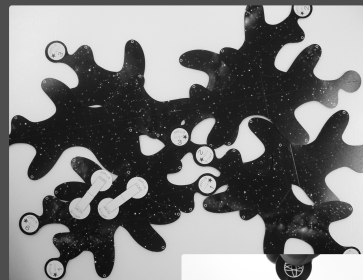
ワカメから宇宙へ

秋も深まり、東の空からはカペラ、アルデバラン、ベテルギウスにリゲルと、冬の1等星たちが顔を出す季節になってきました。静かな秋の星空も味わいがあって良いものですが、にぎやかな冬の星空はやはり星に親しむにはもっとも適した季節ではないでしょうか。季節によって移り変わる星々や星座を眺めていると、「いつの季節もおおぐまは海に入って休めない」とか「オリオンはさそりと出会わないようにしている」といった年周運動を上手に神話と絡めて星座を作った先人のあそび心には、ただただ感嘆するばかりです。私もその時期に生まれて、いろいろと提案したかった。さてさて、そのような年周運動に気がついた私たちの先祖様は、地球をぐるっと取り囲む仮想的な球である「天球」を考え出しました。この天球を地球儀のように立体にしたものが「天球儀」なのですが、全天の星の分布を知り、星の年周運動がなんたるかを理解するにはうってつけの道具です。天ブラでは、この天球儀を簡単に作成できるペーパークラフトを開発しましたのでご紹介しましょう。

まずは写真をご覧ください。なにやらワカメのような形に切り抜かれた星空が見えますが、実はこのワカメが4枚組み合わせられて球となります。今回の天球儀ではどのように平面を組み合わせる球体を作るか複数のデザインを比較検討した結果、この形が新しく見た目にも楽しいので採用されました。これを順番に組み合わせていくと、あら不思議、折りたたみ可能な天球儀となります。開けたり閉じたり、かばかば動かせる天球儀というのも、なかなか乙なものですね。天ブラではすでにこの天球儀ペーパークラフトを使った天文教室の開催も行っており、工作指導のためにレクチャーで使えるパワーポイントファイルなどもウェブから自由にダウンロードして利用できるように用意しています。クラフトキット自体は、近々頒布を開始する予定です。

電波天球儀?

第1弾としては可視光、つまり目で見える光を元に星空を描いてみましたが、天ブラでは今



↑4枚1組の天球儀製作キット。この不思議な形が球体になるのです。

一完成したところ。



後この天球儀を多波長展開していきたいなあ妄想中です。赤外線、X線、電波……宇宙はさまざまな波長の電磁波で輝いています。特に近年発展目覚ましい大気圏外からの観測によって、各種波長による全天マップが次々と公開されつつあります。電波天球儀とか、響きが怪しくて良い感じですね。どうぞご期待下さい!